

県内の医師や看護婦が中心になって、昨年十一月に発足した「徳島で国際協力を考える会（TICO）」の白石吉彦会長（三〇）徳島市南佐古八番町、県立中央病院医師ら会員三人が、二月末から三週間、アフリカのソマリア難民の医療調査のため、ジブチの難民キャンプを訪ねる。同会からの海外派遣は今回が初めてで、白石会長らは「現地のニーズを把握して、地域での医療協力に生かしたい」と話している。

## 国際協力を考える会

海外派遣は、アジア医師会、年休などを利用した短期派遣となった。

連絡協議会（AMDA、本期派遣となった。徳島で国際協力を考える会は、アフリカのマラウイ部岡山市）から要請を受けたため。白石会長のほか、丹生谷通さん（三〇）徳島市南佐古八番町、同病院医師と二年間、医療活動をした吉田修さん（三五）と谷尻規子さん（三〇）板野郡松茂町広島、同病院看護婦が参加する。AMDAは昨年一月からソマリアの隣国ジブチ国内で、ソマリア難民に対する緊急救援活動を展開しており、三人は難民キャンプでの診療活動や難民の生活環境などを調査する。

白石会長は自治医科大学時代に中国へ留学した経験をもつが、丹生谷、谷尻さんも含め、三人ともこうした海外での活動は初めて。それぞれ職場の都合などで長期休暇取得が困難なた

## 生活環境も把握へ

派遣に先立ち、同会は十六日午後一時半からJR徳島駅ビル内の国際交流プラザで「第二回徳島で国際交流協力を考える集い」を開く。ソマリア難民救援活動に参加した医師らが活動状況を話す。問い合わせは、同市富田浜一の近藤整形外科内の同会事務局へ電0886(54)6808へ。

## ジブチ派遣

なお、同会は十六日午後一時半からJR徳島駅ビル内の国際交流プラザで



## ソマリア難民を救え

# 県内の医師ら医療調査

ソマリア難民の医療調査のため、ジブチへ派遣される左から白石、丹生谷の両医師と看護婦の谷尻さん。県立中央病院